

第37号

さくらしま

2023



鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕
錦江湾に浮かぶ桜島

目

次

巻頭言	1
会長挨拶	3
I. 同門会員業績・学会発表	5
II. 教室行事	
1. 共催の講演会	9
2. 第19回 頭頸部外科月間「鼻の日」市民講座 ...	9
3. 第14回 耳鼻咽喉科月間「耳の日」市民講座 ...	10
III. 同門会報告	11
IV. 奨学寄附金寄附者様ご芳名一覧	13
V. 地域医療報告	14
VI. 特殊外来通信	
難聴・耳鳴り・補聴器外来	16
VII. 病理集計	18
VIII. 手術実績	19
IX. 諸研究費	25
X. 業 績	
1. 著 書	27
2. 原 著	27
3. 総 説	28
4. その他	29
5. 国内学会発表	30
XI. 医局通信	
1. 新入局員紹介	35
2. 医局人事	37

3. 学会報告

①18th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology - Head and Neck Surgery	38
②第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会	38
③第46回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会	39
④第84回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会	40
⑤第37回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会	40
⑥第35回日本口腔・咽頭科学会 総会・学術講演会	40
⑦第61回日本鼻科学会総会・学術講演会	41
⑧第32回 日本耳科学会総会・学術講演会	42
⑨第73回日本気管食道科学会ならびに学術講演会	42
⑩第67回 日本音声言語医学会 総会・学術講演会	42
⑪第32回 日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会	43
⑫第35回日本喉頭科学会総会 学術講演会	43
⑬第22回日本再生医療学会総会	44

4. 関連病院便り

①鹿児島医療センター便り	45
②鹿児島市立病院便り	46
③鹿児島厚生連病院便り	46
④いまきいれ総合病院便り	47
⑤霧島市立医師会医療センター便り	47
⑥天辰病院便り	48

XII. 関連病院と診療日案内	49
------------------------	----

XIII. 海外同門会名簿	52
----------------------	----

XIV. 自治医大研修生	56
---------------------	----

同門会会則	58
--------------	----

編集後記	60
-------------	----

巻 頭 言

山 下 勝

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会の皆様におかれましては、日頃から多大なご援助・ご指導を賜り誠に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は猛威をふるい続け、第8波の到来により鹿児島大学病院でも入院や手術の制限を行わなければならない状況となりました。同門会の先生方にもご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。私自身も不覚にもその波の前に感染してしまいました。ワクチンのおかげか、発熱もなくごく軽度の咽頭痛のみで経過しましたが、自宅療養を余儀なくされました。2023年5月8日以降は5類感染症に移行し、徐々に平時の状況へと戻ることが期待されております。今後の第9波、ワクチンや治療の扱いにも見通せない部分がありますが、柔軟に対応しつつ診療を継続できる体制構築が必要です。

ロシア・ウクライナ問題や物流の影響、物価上昇など様々なことが我々の診療に影響を及ぼしています。昨日まで供給されていた物品が突如欠品になり次の入荷も未定となることもあり、その他、建設中の大学病院新外来棟（A棟）の建築費用などの増加、電気料金の高騰などが挙げられます。また、鹿児島県の病院群では看護師不足が深刻であり、A棟の稼働時期にも影響を与え、令和6年9月に本格稼働が延期される予定です。当科の診療面では入院・外来患者数、手術数とも昨年度を超えられませんでした。2022年度入院・外来診療報酬稼働額は過去5年の最高値となっております。

2023年4月入局者として聖マリア病院から永田圭先生をいまきいれ総合病院に、後期研修医として竹元尊徳先生を大学病院にお迎えしました。鹿児島の耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療において、益々ご活躍いただけることと思います。

2024年からは働き方改革が導入されます。大学病院勤務医にはピーコンによる勤怠管理システムの運用が予定されています。しかしながら、数多くの離島診療を抱えている現状においては、すぐに時間外勤務時間の目標値を達成することは不可能な状況です。2035年の本格運用を見据えて、一人でも多くの仲間が増えるよう、医学生、初期研修医に様々な方法で診療科の魅力を伝えるべく教室員一同で努力しています。

2023年度の学会活動ではハイブリッド開催は徐々に減少することが予想されます。現地開催ならではのコミュニケーションや活発な討議も期待されています。当科に興味をもつ医学生、初期研修医には積極的に学会に参加いただき、心を決めていただくべくしっかり勧誘を行っていくつもりです。

大学院には久徳貴之先生に社会人大学院生として入学いただきました。新しい動物実

験施設の運用も始まり、研究環境も整ってまいりました。臨床業務も多忙な中、精一杯研究面でも頑張っていただけだと思います。

さて、幕末から明治にかけて、薩摩藩から西郷隆盛や大久保利通ら多くの偉人を輩出したことに、当時の郷中（ごじゅう）教育の影響が大きかったとされています。同一地域の郷中に住む青少年が自発的に、教師からではなく先輩から後輩に指導を行い勇気と根性を養い、日常の作法指導や武芸の鍛錬を行うというものだったそうです。この基本精神の経典として鳥津忠良（日新公）は5年余りの歳月をかけて「いろは歌」を完成させたと言われています。47首の歌に当時の実践主義が詠みこまれています。初めの「い」には「古（いにし）への道を聞きても唱へてもわが行（おこない）にせずばかひ（い）なし」と詠まれています。多くの歌の中には自身の行いを見直すべきと感じる歌も多くあり、当教室にもこの精神や教育体系が活かせるのでは？と妄想しております。

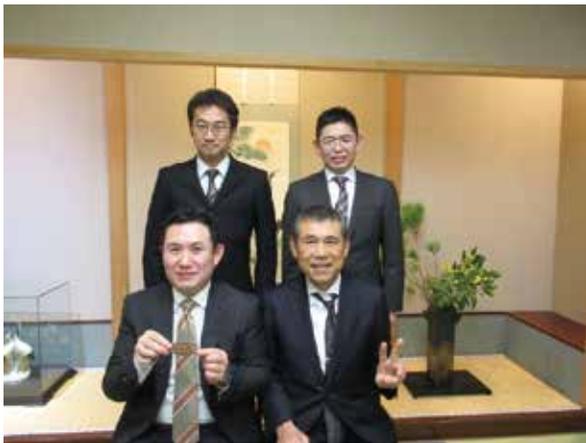
同門会の皆様におかれましては、将来の耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の養成にご理解をいただき、教室ならびに教室員に対して今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、同門会の先生方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

会長挨拶

森 山 一 郎

何という偶然だろう。同門会及び学術講演会の開かれた1月14日は、特別講演の講師宮崎大学医学部教授高橋邦行先生の誕生日なのだ。そして、昨年の同門会は1月15日に開催されたが、その日も特別講演の講師をされた東北大学教授の香取幸夫先生の誕生日であった。この偶然の一致は、鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科学教室同門会にとって瑞兆なのだろうか。



さて、スポーツの世界から昨年2022年を振り返ってみると、サッカーワールドカップカタール大会で森保ジャパンの日本チームの活躍が、いまだに鮮明に思い出される。ドイツ、スペインを破っての歴史的な予選一位通過。そして、惜敗した決勝トーナメントではPKを失敗して、批判を浴びることとなったが、サッカーの王様ペレに、「ペナルティーを蹴るものだけが、それを外すことができる」の名言がある。さすが世界の一流プレイヤーの発言だ。幸運なことに、1976年に来日した背番号10の真白なユニフォームを着たペレのプレーを国立競技場で直に観たことがあったが、そのオーラは今でも忘れられない。

そして今年のスポーツでは、なんといっても侍ジャパンのWBCでの活躍である。正直なところ、まさか本当に優勝できるとは思っていなかった。メキシコ戦の激的な逆転サヨナラ勝利、米国との決勝戦の最後のアウトを投手大谷が同僚のトラウトから三振を取ってのゲームセット。何とも漫画チックでつい笑ってしまいが、苦杯をなめたメキシコのベンジー・ギル監督の「日本が勝った。しかし今夜の試合は野球界そのもの勝利だ」(Japan advanced, but the world of baseball won tonight.)の言葉が印象に残る。

思えば、日本の野球は1934年に来日したベーブ・ルースから急に人気を博するようになった。そのルースは、「メジャーリーガーはただ野球が上手いだけでなく、だれよりも紳士である」を実践し、日本人に真摯なプレーをアピールしたとある。そして、日本サッカーの礎を築いたのは、ドイツ人指導者のクラマーさんである。「サッカーの上達に近道はない。不断の努力だけである」などクラマー語録にはどれもインパクトがある。

野球界もサッカー界も、やっとな日本流の「恩返し」（もっとも野球の本家の米国人や指導者の母国のドイツ人にとっては災難であったろうし、今後「〇〇の悲劇」と語り継がれるかもしれない）ができたようだ。努力し花開いた人の名言は、スポーツ界以外の実社会にも援用できるので、座右の銘にする人も多いのではないか。

本同門会も、同門会を創設し育てこられたこれまでの名会長たちに「恩返し」するためにも、近道せず地道に会員の親睦を深め少しずつ発展していけばよいと思う。新型コロナウイルスは、5月8日から『5類感染症』に移行することが決定しているので、来年の同門会は小生が会長になってから初めての、制限なしの対面での総会が開かれそうである。そこで、総会後の懇親会において、コロナ禍で中止していた前教授黒野祐一先生の退職記念と新教授山下勝先生の就任記念改め就任3周年記念の各祝賀会を予定している。アトラクションも計画中なので、できるだけ多くの会員の先生方に（どなたかの誕生日に当たるかもしれませんが）お集まりいただけたら幸甚に存じます。開催日は、大学入学共通テストの日程と重ならないように2024年1月20日土曜日（於城山ホテル）としました。

鹿児島大学名誉教授 黒野 祐一

<総説>

黒野祐一：歯科診療に役立つ口腔・咽頭の知識. 顎顔面口腔育成会誌 2022; 9: 24-26.

黒野祐一：歯科診療に役立つ鼻副鼻腔の知識. 顎顔面口腔育成会誌 2022; 9: 27-31.

<原著論文>

Nakahashi-Ouchida R, Mori H, Yuki Y, Umemoto S, Hirano T, Uchida Y, Machita T, Yamanoue T, Sawada SI, Suzuki M, Fujihashi K, Akiyoshi K, Kurono Y, Kiyono H. Induction of Mucosal IgA-Mediated Protective Immunity Against Nontypeable *Haemophilus influenzae* Infection by a Cationic Nanogel-Based P6 Nasal Vaccine. Front Immunol. 2022; 13: 819859. doi: 10.3389/fimmu.2022.819859. eCollection 2022

黒野祐一, 山下 勝：水道水による含嗽の効果. 日耳鼻会報 2022; 125(8): 1298-1301.

<学会>

令和5年1月14日

令和5年同門会・地方部会合同学術講演会 一般演題

「2-メタクリロイルオキシエチルホスホリルコリンポリマー (MPCP) の新規含嗽薬としての有用性」

黒野祐一, 井内寛之, 片平聖子, 山下 勝

<講演>

令和4年5月11日

ジェニナック WEB シンポジウム

「上気道感染症治療におけるキノロン系抗菌薬の位置付け」

サンロイヤルホテルより WEB 配信

主催：大正富山製薬(株), アステラス製薬(株)

令和4年6月22日

Upper airway diseases WEB セミナー

上気道細菌感染症 -エビデンスに基づく治療戦略-
杏林製薬(株)鹿児島営業所より WEB 配信
主催：杏林製薬(株)

令和4年9月15日

大阪耳鼻科感染症 WEB セミナー
「上気道感染症の抗菌薬治療におけるキノロン系抗菌薬の位置づけ」
かごしま空港ホテル2階 梅の間 より WEB 配信
主催：杏林製薬(株)

令和4年12月7日

横浜 ENT WEB セミナー
「上気道感染症の抗菌薬治療におけるキノロン系抗菌薬の位置づけ」
杏林製薬(株)鹿児島営業所より WEB 配信
主催：杏林製薬(株)

令和4年12月21日

令和4年第2回熊本県アレルギー疾患医療従事者等研修会
「アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点」
Webex によるオンライン研修
主催：熊本県アレルギー疾患協議会

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

<論文>

内菌明裕：舌痛症の東洋医学的背景と鉄動態についての一考察. 痛みと漢方 31: 31-39,
2022.

内菌明裕：半夏厚朴湯処方例における鉄代謝についての検討. 漢方と最新医療 32(1):
69-76, 2023.

<学会・講演会>

令和4年7月3日

日本東洋医学会福岡県並びに九州合同地方部会 学術講演会 (福岡市)
「耳鼻咽喉科における不定愁訴に対する漢方療法 WEB 口演

令和4年7月23日

日本疼痛漢方研究会（東京）

「頭頸部領域の疼痛に対する漢方薬の外来即時内服についての検討」WEB口演

令和4年10月22日

日本耳鼻咽喉科漢方研究会（東京）

教育講演 「めまい・難聴に対する漢方療法の有用性」

令和4年11月6日

日本東洋医学会中国四国合同地方部会学塾講演会（山口市）

「舌診の考え方」WEB口演

令和4年11月10日

熊本県北部耳鼻咽喉科セミナー（熊本市）

「耳鼻咽喉科領域感染症の起炎菌の動向とCOVID19～実地臨床家の立場から～」

令和4年2月23日

令和4年度日本東洋医学会 鹿児島県地方部会総会学術講演会（鹿児島市）

テーマ別検討会 実践編 その1「虚」に対する考え方と応用

2019年に発生した新型コロナウイルスによる感染症は、COVID19の名の下に、世界中を跳梁しました。我が国では、第8波が収束し、2023年5月からは、2類相当感染症からインフルエンザと同等の5類に移行することが決まっています。

一方で、2022年2月に始まったロシアのウクライナへの侵攻は一年を過ぎても収束の気配がなく、むしろ、核戦争の危機までささやかれる事態です。

中国、ロシア、北朝鮮に隣接する我が国の岸田政権は、中国の軍事費の増大（現在USAの約1/3）で、崩れつつある極東の軍事バランスを保つために、USAの後押し（おそらく）で、これまで、なんとなく国是としてきた「軍事費をGDP1%以下に」という暗黙の了解を簡単に破り、一挙に2%を目指すことにしました。

その財源問題でまたぞろ不毛な論戦が繰り返されています。財務省はどうしても増税を画策し、その新規手段として、「財源確保法」を今国会で通そうとしています。問題なのは、この法律が、財源確保のためにあちこちからお金をむしり取ってくるという権限を当の防衛省ではなくて、なんと財務省が握ろうとしていることです。

2009年の道路国会では、ガソリン税を国交省の特別会計から取り上げて一般会計に繰

り込ませ、道路の整備や拡充を簡単にできないようにしてしまいました。おかげでこの10年間に高速道路網の総延長距離は韓国に追い抜かれ、傷んだ道路の補修も思うようにできない状態にしてしまいました。同じように、消費税が社会福祉の財源だと偽り、厚労省の特別会計にするはずもなく、一般会計に繰り込んでどこまでも医療福祉の予算を削り続け、保健所を減らし、中小規模の病院を統廃合して、結果、コロナ禍で信じられない数の国民を犠牲にしました。なおかつ何の反省もしません。同じ事が防衛予算でも行われようとしています。

また、食料の大半を海外に頼っている我が国は、東大の鈴木先生が言われるように、先進国の中で、『最初に飢える国』になるかもしれません。事実、家畜のえさや水などその半分以上を海外に依存し、燃料すら思うように手に入れられなくなる事態も近づいています。その意味で、すでに日本の食糧自給率はマイナスだと指摘する経済学者もいます。

そのような中で、私たちは、国民の健康を守っていかなければ成りません。薬剤による治療が膨大にふくれあがる中、政府が大規模な財政出動を行い、国民ひとり当たりの生産性を向上させるようにしてくれる以外に、この閉塞した状況を突破することは難しい。

WBCで侍 JAPAN が、驚異的な力を発揮して優勝しました。昨年のサッカー WC に続く数少ない嬉しいニュースでした。彼らの団結心と選手と自らの判断を信じ切ってこの快挙に導いた栗山監督の言葉にあるように、「稚心を去り」大人になって、物事をよく考え、対処していきたいと強く思うこの頃です。

1. 共催の講演会

第123回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 令和5年2月2日（ハイブリッド開催）

一般演題：「当院におけるアレルギー性鼻炎治療の現状」

田中紀充（かもいけ耳鼻咽喉科クリニック 院長）

特別講演：「花粉症診療アップデート」

日本医科大学 頭頸部感覚器科学分野 教授 大久保 公裕 先生

2. 第19回 頭頸部外科月間「鼻の日」市民講座

日時：令和4年8月6日(土)

場所：プラザN 4階ヴァリエホール

コロナ禍のため開催を控えておりました「鼻の日」市民講座を4年ぶりに開催することができました。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では2021年より毎年7月1日～31日を頭頸部外科月間とし、頭頸部がん予防と啓発活動を展開することになり、この市民講座も今後は頭頸部月間市民講座として模様替えする予定です。今回は以下の内容の講演となりました。今後も頭頸部外科に関する話題提供を行ってまいります。

講演内容：

司会 鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 川島雅樹

1. きこえの手術について

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 吉松 誠芳

2. アレルギー性鼻炎 ～最近の話題～

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 川島 雅樹

3. こえの手術について

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山下 勝

文責：川島雅樹

3. 第14回 耳鼻咽喉科月間「耳の日」市民講座

日時：令和5年3月4日(土)

場所：鹿児島県医師会館 中ホール

コロナ禍のため開催を控えておりました「耳の日」市民講座を4年ぶりに開催することができました。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では2022年より毎年3月1日～31日を耳鼻咽喉科月間とし、耳鼻咽喉科に関するさまざまな啓発活動を展開することになり、この市民講座も今後は耳鼻咽喉科月間市民講座として模様替えする予定です。今回は以下の内容の講演となりました。今後は耳鼻咽喉科に関してあまり知られていない話題も含めて提供を行ってまいります。

講演内容：

司会 鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 川島雅樹

1. いびきと睡眠時無呼吸症候群

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 松元 隼人

2. 急に発症する難聴について

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 田淵 みな子

文責：川島雅樹

令和5年 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 日耳鼻鹿児島県地方部会合同学術講演会

令和5年の同門会は、1月14日に城山ホテル鹿児島とWEBのハイブリッド形式で開催された。ちょうど大学入学共通テストが行われている日程だった。昨年同様ハイブリッドで開催した。ハイブリッドでの運営、参加ともに次第に慣れてきていたが、何分素人の手作りのため、参加の皆様にはご迷惑をおかけしたことと思う。この場を借りて陳謝したい。現地参加が23名、オンライン参加が16名と現地参加の先生方が多かった。昨年よりオンライン参加の方が減少して、委任状が多かった。懇親会は本年も開催を控えた。本年の新入会員として、後期研修医の田中智規先生と、下藺知己先生を迎え入れた。同門会にとって新入会員を迎え入れられて非常に喜ばしいことであった。本年も総会後に現地参加の先生方のみではあるが、写真撮影を行った。

学術講演会では、一般演題 6演題と特別講演として宮崎大学の新任教授である高橋邦行先生に「側頭骨破壊性病変の診断と対応」と題して講演をいただいた。一般演題では県内の関連病院からの症例報告や、今年は開業医の先生も一般演題を発表され、一般演題も盛況であった。特別講演では、側頭骨病変の画像診断についてわかりやすく講演いただいた。隣県の新任教授に講演いただき、隣県として今後も仲良く耳鼻科医療を発展させていくことを祈念する講演となった。

来年の同門会では、コロナ禍のため行えていなかった山下教授の就任と黒野前教授の退任の祝賀会を計画している。祝賀会を大いに盛り上げるよう多数の御参加を期待している。

学術講演会演題

一般演題

座長

西元 謙吾 先生 鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科

林 多聞 先生 鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科

1. 当院における呼吸上皮腺腫様過誤腫症例の病理学的検討

田中 智規¹⁾, 高木 実¹⁾, 西元 謙吾¹⁾, 松崎 勉¹⁾, 後藤 正道²⁾, 野元 三治²⁾

1) 鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科

2) 鹿児島医療センター 病理診断科

2. 当院における茎状突起過長症の検討
峠 早紀子, 花牟禮 豊, 積山 幸祐, 福田 勝則, 昇 卓夫
いまきいれ総合病院 頭頸部・耳鼻咽喉科
3. 当院における内視鏡下鼻副鼻腔手術例の検討
牧瀬 高穂
鹿児島厚生連病院 耳鼻いんこう科
4. ビスホスホネート製剤による外耳道骨壊死症例
上野 員義
医療法人恵史会うへの耳鼻咽喉科クリニック
5. 当院におけるリティンパの使用経験
原口 兼明
医療法人 原口耳鼻咽喉科
6. 2-メタクリロイルオキシエチルホスホリルコリンポリマーの新規含嗽薬としての有用性
黒野 祐一¹⁾, 井内 寛之²⁾, 片平 聖子³⁾, 山下 勝³⁾
 - 1) 鹿児島大学客員研究員
 - 2) 霧島市立医師会医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
 - 3) 鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

特別講演

【司会】 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

教授 山下 勝 先生

「側頭骨破壊性病変の診断と対応」

宮崎大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

教授 高橋 邦行 先生

(文責：大堀純一郎)



令和5年 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 令和5年1月14日 於：城山ホテル鹿児島

奨学寄附金寄附者様ご芳名一覧

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室への多数のご寄附を賜りまして、心よりお礼申し上げます。お受けいたしました寄附金は、教室の研究や後進の育成の為に有意義に活用させていただきます。

今後とも教室へのご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(敬称略, 五十音順)

【ご芳名のみ掲載希望の先生方】

石川 勉	伊東小都子	伊東 祐久	岩坪 哲治	上野 員義
牛飼 雅人	内藺 明裕	江川 雅彦	大野 郁夫	大野 文夫
大堀純一郎	黒野 祐一	河野もと子	川島 雅樹	下麥 哲也
杉原 純次	鈴木 晴博	関 大八郎	積山 幸祐	高木 茂
谷本ゆかり	谷本洋一郎	田淵みな子	鶴丸 浩士	出口 浩二
新納えり子	西元 謙吾	橋本 典子	花牟禮 豊	濱崎喜與志
原口 兼明	福田 勝則	松永 信也	松根 彰志	松山 博文
森園 健介	宮下 圭一	宮之原郁代	宮本 佑美	山下 勝
山本 誠	吉福 孝介	吉松 誠芳		

【掲載を希望されない先生方】

11名

【対象地域】

阿久根市，志布志市，垂水市，曾於市，西之表市，大崎町，瀬戸内町，徳之島町

【受診者数】

小学生 4,296人 中学生 2,077人 合計6,373人

【対象疾患】

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，アレルギー性鼻炎，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大の9疾患

【結果】

疾患別の有病率はアレルギー性鼻炎が最も高く，耳垢栓塞，扁桃肥大と続く結果であった（図1）。

学年別耳疾患有病率は，耳垢栓塞が全学年で高い結果となった（図2）。

学年別鼻疾患有病率は，アレルギー性鼻炎が全学年で高く，10%を超える学年もみられた（図3）。

学年別扁桃疾患有病率は，扁桃肥大が小学1年生で特に高かった（図4）。

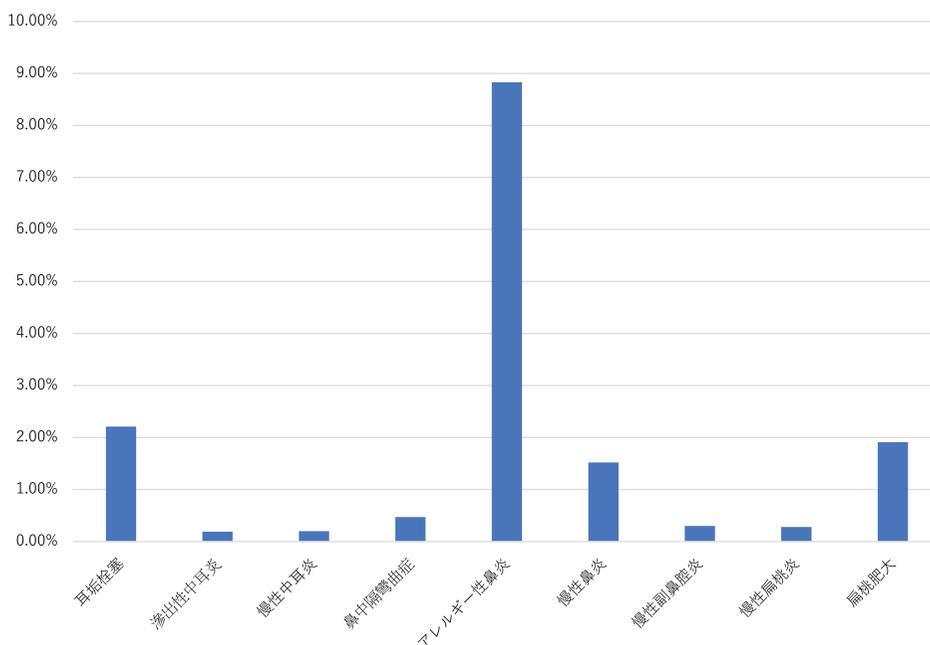


図1. 疾患別の有病率

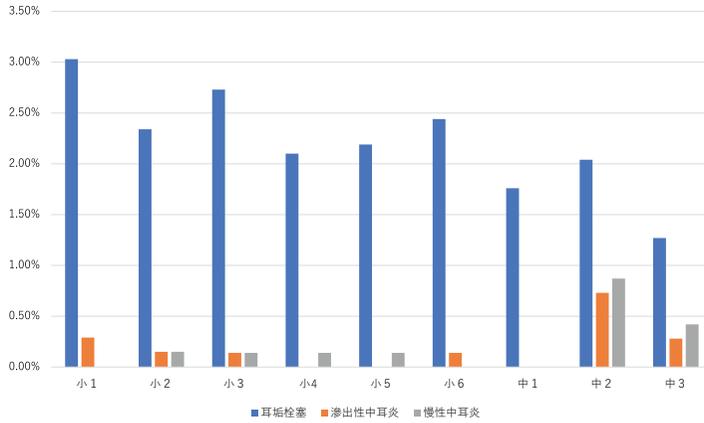


図2. 学年別耳疾患有病率

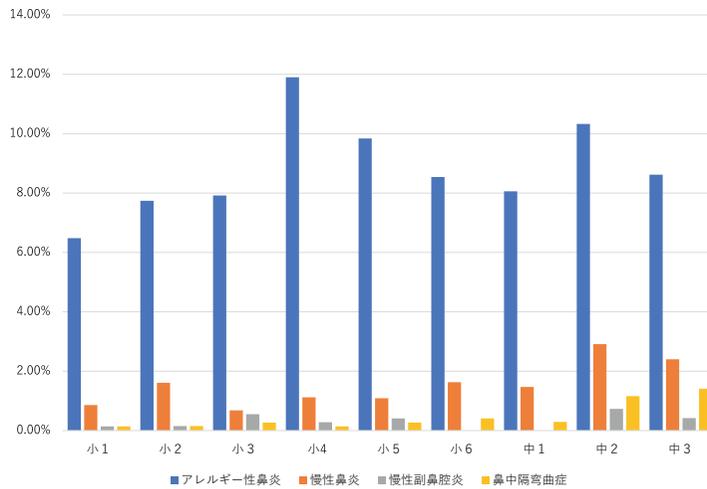


図3. 学年別鼻疾患有病率

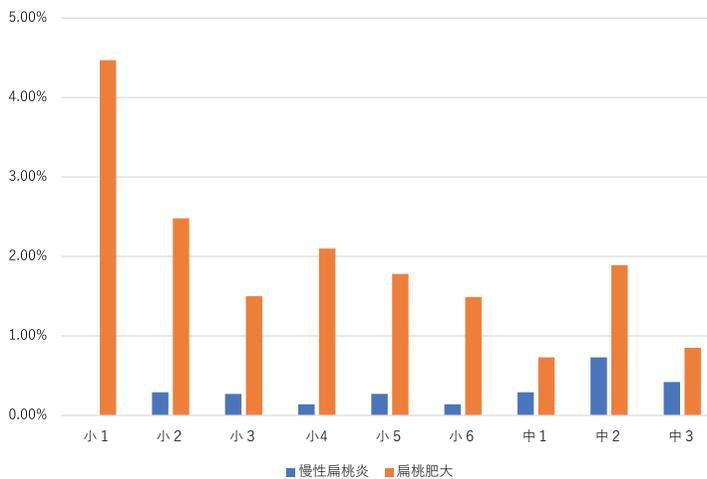


図4. 学年別扁桃疾患有病率

難聴・耳鳴り・補聴器外来

宮之原 郁 代

平素より多くの貴重な症例をご紹介頂きありがとうございます。

当外来では例年に引き続き、小児・成人難聴の精査、難聴の遺伝学的検査、人工内耳候補者選定、補聴器フィッティング、TRT療法、めまいの精査・リハビリ等をおこなっております。過去6年間の各種検査数について表1に示しました。

本年の傾向としては、前庭機能検査の件数は著変なく、補聴器フィッティングは昨年に比べ減少し、過去6年でも減少傾向、耳鳴り外来はやや減少、ABRは増加傾向、CORはやや減少でした。補聴器フィッティングについては、大学病院よりむしろ、近医あるいは、直接補聴器販売店を訪れている人が多くなっているのかもしれませんが。難聴の遺伝学的検査については昨年より増加ですが、隔年で変動がありますので、大きな変化はありません。ただ、近年メディアで取り上げられることも多くなり、問い合わせ件数は増加傾向にあります。

造影MRI検査による内リンパ水腫撮影が2022年2月から可能になり、現在少しずつですが、症例を集積中です。メニエール病や遅発性内リンパ水腫の臨床像に即した特徴的な所見が得られる症例もあり、画像診断の有用性を実感しているところです。難聴の遺伝学的検査に関しては、遺伝カウンセリングを行いながら、患者さんの意向に沿って行っています。2022年9月に、保険診療での解析対象遺伝子ならびに変異が拡大し、先天性難聴に関して50遺伝子1135変異のスクリーニング検査が可能になりました。また、今年度も引き続き、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「難治性聴覚障害に関する調査研究班（研究代表者 宇佐美真一）」に参加しています。現在、重点的に、若年発症型両側性感音難聴、アッシャー症候群、BOR（鰓耳腎）症候群、ワーデンプルグ症候群について疫学研究を行っています。いずれも希少疾患で、症例集積に苦心しているところです。つきましては、これまで同様に患者様のご紹介につき高配頂けましたら幸いに存じます。

今後も、現在の体制を維持しつつ、幅広い年齢層の聴覚障害、平衡障害に対応していただけるよう研鑽していきたいと思っております。

表 1

	ABR	補聴器 外来	耳鳴外来 (TRT療法)	難聴の遺伝 学的検査*	前庭機能 検査**	COR	3TMRI 内リンパ 水腫撮影
2017年	73	29	13	11(5)	42	17	
2018年	77	36	6	22(8)	67	27	
2019年	92	31	5	11(6)	60	26	
2020年	91	27	5	19(12)	39	37	
2021年	95	28	14	7(4)	46	39	
2022年	96	21	10	23(11)	42	31	28

*()内は家系数

** は延べ数, 他はすべて新患者

VII. 病理集計

部位	悪性	件	良性	件
外耳・中耳	SCC	3	cholesteatoma	32
	adenoid cystic carcinoma	1		
鼻・副鼻腔	SCC	6	papilloma	10
	malignant melanoma	3	hemangioma	4
	DLBCL	3	hematoma	3
	adenocarcinoma	1	juvenile psammomatoid ossifying fibroma	1
口腔・舌	SCC	25	squamous cell papilloma	1
			hemangioma	1
上咽頭	SCC	2	oncocytoma	1
中咽頭	SCC	33	squamous cell papilloma	12
	DLBCL	5		
下咽頭	SCC	72	squamous cell papilloma	1
喉頭	SCC	39	laryngeal nodule	11
			laryngeal polyp	4
			laryngeal cyst	3
			laryngeal papilloma	3
			amyloidosis	2
耳下腺	SCC	1	pleomorphic adenoma	8
	basal cell adenocarcinoma	1	warthin tumor	7
	carcinoma ex pleomorphic adenoma	1	basal cell adenoma	3
	salivary duct carcinoma	1	myoepithelioma	1
			venous malformation	1
顎下腺			sialolithiasis	7
			pleomorphic adenoma	4
小唾液腺			chronic sialadenitis with SjS	7
甲状腺	papillary carcinoma	6	adenomatous goiter	6
	follicular carcinoma	4		
頸部	metastasis of carcinoma	14	thyroglossal cyst	4
	Hodgkin lymphoma	5	lipoma	3
	DLBCL	1	schwannoma	3
	follicular lymphoma	1	branchial cyst	2
	metastasis of sarcoma	1		

病理集計

外来	416
入院	487
総施行件数	903

2022年1-12月

鹿児島医療センター

手術名	件数
耳科手術	63
鼓室形成術	11
鼓膜チューブ挿入術	4
人工内耳手術	0
アプミ骨手術	0
顔面神経減荷術	2
先天性耳瘻管摘出術	17
外耳道形成術	1
鼓膜形成術	13
乳突削開術	9
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	6
鼻科手術	264
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	161
鼻中隔矯正術	45
鼻甲介切除術	56
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	2
その他の鼻科手術	0
口腔咽喉頭手術	222
扁桃摘出術（口蓋扁桃、アデノイド含む）	178
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	44
口蓋垂・軟口蓋形成術	3
舌・口腔良性腫瘍摘出術	4
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	13
咽頭良性腫瘍摘出術	7
咽頭悪性腫瘍摘出術	17
中咽頭悪性腫瘍摘出術	
下咽頭悪性腫瘍摘出術	
その他の口腔咽喉頭手術	0

手術名	件数
喉頭微細手術	73
嚥下機能改善，誤嚥防止，音声機能改善手術	0
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	0
頭頸部手術	173
頸部郭清術	22
単独で行った頸部郭清術	
頭頸部腫瘍摘出術	144
顎下腺良性腫瘍摘出術	4
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	34
耳下腺悪性腫瘍摘出術	5
甲状腺良性腫瘍摘出術	9
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	11
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	11
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	1
喉頭悪性腫瘍摘出術	10
リンパ節生検	36
頸部嚢胞摘出術	11
顎下腺摘出術	4
その他の頭頸部腫瘍摘出術	1
その他の頭頸部手術	7
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	0
気管切開術	14

鹿兒島市立病院

手術名	件数
耳科手術	27
鼓室形成術	5
鼓膜チューブ挿入術	7
人工内耳手術	8
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	1
先天性耳瘻管摘出術	2
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	2
乳突削開術	2
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	0
鼻科手術	65
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	53
鼻中隔矯正術	8
鼻甲介切除術	4
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
その他の鼻科手術	0
口腔咽喉頭手術	154
扁桃摘出術（口蓋扁桃、アデノイド含む）	126
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	28
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	1
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	8
咽頭良性腫瘍摘出術	13
咽頭悪性腫瘍摘出術	4
中咽頭悪性腫瘍摘出術	
下咽頭悪性腫瘍摘出術	
その他の口腔咽喉頭手術	0

手術名	件数
喉頭微細手術	25
嚥下機能改善，誤嚥防止，音声機能改善手術	1
喉頭形成術	1
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	0
頭頸部手術	140
頸部郭清術	10
単独で行った頸部郭清術	0
頭頸部腫瘍摘出術	67
顎下腺良性腫瘍摘出術	1
顎下腺悪性腫瘍摘出術	1
耳下腺良性腫瘍摘出術	15
耳下腺悪性腫瘍摘出術	3
甲状腺良性腫瘍摘出術	10
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	12
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	5
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	5
リンパ節生検	9
頸部嚢胞摘出術	1
顎下腺摘出術	1
その他の頭頸部腫瘍摘出術	4
その他の頭頸部手術	63
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	0
気管切開術	48

鹿兒島厚生連病院

手術名	件数
耳科手術	
鼓室形成術	0
鼓膜チューブ挿入術	2
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	0
先天性耳瘻管摘出術	0
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	0
乳突削開術	0
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	0
鼻科手術	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	54
鼻中隔矯正術	27
鼻甲介切除術	56
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
その他の鼻科手術	48
口腔咽喉頭手術	
扁桃摘出術（口蓋扁桃、アデノイド含む）	40
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	0
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	0
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	0
咽頭良性腫瘍摘出術	0
咽頭悪性腫瘍摘出術	0
中咽頭悪性腫瘍摘出術	0
下咽頭悪性腫瘍摘出術	0
その他の口腔咽喉頭手術	0

手術名	件数
喉頭微細手術	3
嚥下機能改善、誤嚥防止、音声機能改善手術	0
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	0
頭頸部手術	
頸部郭清術	0
単独で行った頸部郭清術	0
頭頸部腫瘍摘出術	0
顎下腺良性腫瘍摘出術	0
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	3
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0
甲状腺良性腫瘍摘出術	0
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	0
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	1
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	0
リンパ節生検	0
頸部嚢胞摘出術	0
顎下腺摘出術	0
その他の頭頸部腫瘍摘出術	0
その他の頭頸部手術	0
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	0
気管切開術	0

いまきいれ総合病院

手術名	件数
耳科手術	62
鼓室形成術	23
鼓膜チューブ挿入術	28
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	2
先天性耳瘻管摘出術	2
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	1
乳突削開術	6
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	0
鼻科手術	436
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	163
鼻中隔矯正術	91
鼻甲介切除術	181
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	1
その他の鼻科手術	0
口腔咽喉頭手術	172
扁桃摘出術（口蓋扁桃、アデノイド含む）	153
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	19
口蓋垂・軟口蓋形成術	1
舌・口腔良性腫瘍摘出術	6
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	7
咽頭良性腫瘍摘出術	2
咽頭悪性腫瘍摘出術	3
中咽頭悪性腫瘍摘出術	
下咽頭悪性腫瘍摘出術	
その他の口腔咽喉頭手術	0

手術名	件数
喉頭微細手術	15
嚥下機能改善, 誤嚥防止, 音声機能改善手術	4
喉頭形成術	4
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	0
頭頸部手術	77
頸部郭清術	14
単独で行った頸部郭清術	
頭頸部腫瘍摘出術	63
顎下腺良性腫瘍摘出術	5
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	15
耳下腺悪性腫瘍摘出術	1
甲状腺良性腫瘍摘出術	16
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	8
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	2
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	5
喉頭悪性腫瘍摘出術	1
リンパ節生検	4
頸部嚢胞摘出術	5
顎下腺摘出術	1
その他の頭頸部腫瘍摘出術	0
その他の頭頸部手術	0
食道異物摘出術	3
気管異物摘出術	0
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	17
気管切開術	10

鹿兒島大学病院

手術名	件数
耳科手術	73
鼓室形成術	30
鼓膜チューブ挿入術	14
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	6
先天性耳瘻管摘出術	5
外耳道形成術	3
鼓膜形成術	3
乳突削開術	5
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	7
鼻科手術	288
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	137
鼻中隔矯正術	62
鼻甲介切除術	79
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	3
顎・顔面骨折整復術	4
その他の鼻科手術	3
口腔咽喉頭手術	191
扁桃摘出術（口蓋扁桃、アデノイド含む）	138
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	53
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	4
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	6
咽頭良性腫瘍摘出術	2
咽頭悪性腫瘍摘出術	44
中咽頭悪性腫瘍摘出術	
下咽頭悪性腫瘍摘出術	
その他の口腔咽喉頭手術	0

手術名	件数
喉頭微細手術	26
嚥下機能改善，誤嚥防止，音声機能改善手術	8
喉頭形成術	5
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	3
頭頸部手術	118
頸部郭清術	25
単独で行った頸部郭清術	6
頭頸部腫瘍摘出術	90
顎下腺良性腫瘍摘出術	6
顎下腺悪性腫瘍摘出術	2
耳下腺良性腫瘍摘出術	17
耳下腺悪性腫瘍摘出術	5
甲状腺良性腫瘍摘出術	5
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	13
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	10
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	5
喉頭悪性腫瘍摘出術	13
リンパ節生検	14
頸部嚢胞摘出術	6
顎下腺摘出術	5
その他の頭頸部腫瘍摘出術	2
その他の頭頸部手術	3
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	1
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	2
気管切開術	32

霧島市立医師会医療センター

手術名	件数
耳科手術	12
鼓室形成術	0
鼓膜チューブ挿入術	0
人工内耳手術	0
アブミ骨手術	0
顔面神経減荷術	0
先天性耳瘻管摘出術	0
外耳道形成術	0
鼓膜形成術	7
乳突削開術	0
試験的鼓室開放術	0
中耳根本術	0
内リンパ嚢開放術	0
聴神経腫瘍摘出術	0
その他の耳科手術	5
鼻科手術	88
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	38
鼻中隔矯正術	21
鼻甲介切除術	29
視神経管開放術	0
涙嚢・鼻涙管手術	0
眼窩吹き抜け骨折手術	0
顎・顔面骨折整復術	0
その他の鼻科手術	0
口腔咽喉頭手術	67
扁桃摘出術（口蓋扁桃、アデノイド含む）	60
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	7
口蓋垂・軟口蓋形成術	0
舌・口腔良性腫瘍摘出術	1
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	1
咽頭良性腫瘍摘出術	5
咽頭悪性腫瘍摘出術	0
中咽頭悪性腫瘍摘出術	0
下咽頭悪性腫瘍摘出術	0
その他の口腔咽喉頭手術	0

手術名	件数
喉頭微細手術	5
嚥下機能改善，誤嚥防止，音声機能改善手術	0
喉頭形成術	0
喉頭截開術	0
その他の嚥下・音声機能改善手術	0
頭頸部手術	47
頸部郭清術	2
単独で行った頸部郭清術	0
頭頸部腫瘍摘出術	45
顎下腺良性腫瘍摘出術	1
顎下腺悪性腫瘍摘出術	0
耳下腺良性腫瘍摘出術	3
耳下腺悪性腫瘍摘出術	0
甲状腺良性腫瘍摘出術	13
バセドウ病手術	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	7
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	1
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	0
喉頭悪性腫瘍摘出術	1
リンパ節生検	9
頸部嚢胞摘出術	4
顎下腺摘出術	3
その他の頭頸部腫瘍摘出術	0
その他の頭頸部手術	0
食道異物摘出術	0
気管異物摘出術	0
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	0
気管切開術	2

(令和5年3月現在)

< 文部科学省科学研究費 >

基盤研究 (C)

喉頭気管粘膜の傷害抑制および再生治療に関する研究

研究代表者 山下 勝

基盤研究 (C)

経眼投与による粘膜免疫応答の誘導

研究代表者 永野 広海

若手研究

ヒト iPS 細胞を用いた気管喉頭軟骨再生

研究代表者 吉松 誠芳

基盤研究 (C)

喉頭気管粘膜障害からの修復促進機序の解明

研究代表者 山下 勝

若手研究

細菌接着におけるホスホリルコリンの関与と新たな治療法の開発に関する研究

研究代表者 井内 寛之

若手研究

高齢者の肺炎球菌感染予防のためのホスホリルコリン経鼻追加ワクチンの開発

研究代表者 宮本 佑美

基盤研究 (C)

新規粘膜アジュバントを用いた広域スペクトラムワクチンの開発に関する研究

研究代表者 黒野 祐一

基盤研究 (C)

AMPK を介した抗酸化作用を有する新規機能性単糖による加齢黄斑変性の予防と治療

研究代表者 寺崎 寛人 研究分担者 山下 勝

< その他 >

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会

一般社団法人曾田豊二記念財団

新規希少糖1,5-anhydro-D-fructose およびその誘導体の抗腫瘍効果, 抗炎症効果を用いた治療法・予防法の開発

セオリオファーマ株式会社

うがい薬と感染予防に関する研究

日油株式会社 ライフサイエンス事業部

新規粘膜アジュバントを用いた広域スペクトラムワクチン

1. 著 書

(1) 山下 勝

4. 声帯病変に対する手術

プラクティス耳鼻咽喉科の臨床第2巻 耳鼻咽喉科の外来処置と外来手術

2022年10月15日発刊 p.217-222. 中山書店

(2) 山下 勝

深頸部膿瘍 deep neck abscess

今日の診療指針 2023年版 p1587. 2023.01.01 医学書院

2. 原 著

(1) 喜山敏志, 井内寛之, 伊東小都子, 西元謙吾, 松崎 勉, 山下 勝

黄色肉芽腫性唾液腺炎の5例

耳鼻臨床 115(4) : 315-321, 2022

(2) 川畠雅樹, 田淵みな子, 山下 勝

咽頭痛を主訴とした無顆粒球症例

耳鼻臨床 115(8) : 650-651, 2022

(3) 安藤由実, 喜山敏志, 西元謙吾, 松崎 勉

小児咬筋内血管腫例

耳鼻臨床 115(9) : 805-809, 2022

(4) 徳重豪士, 花牟禮 豊, 積山幸祐, 山下 勝

喉頭全摘術を要した甲状舌管嚢胞由来と考えられた扁平上皮癌の1例

頭頸部外科 32(2) : 145-150, 2022

(5) OK-432による硬化療法を行ったガン腫4例

峠 早紀子, 井内寛之, 川畠雅樹, 宮下圭一, 山下 勝

日本口腔・咽頭科 36(1) : 59-64, 2023

- (6) **Iuchi H, Ohori J, Matsuzaki H, Tokushige T, Toge S, Yamashita M**
Impact of Phosphorylcholine Expression on the Adherence and Invasion of Streptococcus pyogenes to Epithelial Cells
Microorganisms 2022, 10(3), 527; <https://doi.org/10.3390/microorganisms10030527>
- (7) **Kawahira M, Mizuno K, Machida K, Ohtsuka T, Sato M, Enokida H, Yamashita M, Kanekura T, Arima S, Nakamura N, Sugiura T, Yoshimoto K, Kobayashi H, Ishitsuka K, Kanmura S, Suzuki S, Ueno S, Ido A**
Effects of immune checkpoint inhibitor therapy resumption in patients with malignant tumors after moderate-to-severe immune-related adverse events
PloS one. 2022 Apr 28; 17(4): e0267572. doi: 10.1371/journal.pone.0267572. eCollection 2022.
- (8) **Haraguchi M, Nagano H.**
Two cases of SMARCB1-deficient sinonasal undifferentiated carcinoma.
Otolaryngology Case reports. Volume 24, March 2022, 100427.
- (9) **Nagano H, Nagano I, Kawabata M, Ohori J, Kurono Y.**
Intranasolacrimal Immunization of Mice with Pneumococcal Surface Protein A Plus Poly(I:C) Protective Against Nasopharyngeal Carriage of Streptococcus pneumonia.
Am J Otolaryngol Head Neck Surg. 2022; 5(4): 1186.
- (10) **Nagano H, Matsumoto H, Kurono Y.**
Dysphonia in Polymyositis/Dermatomyositis in Adults.
Indian Journal of Otolaryngology and Head & Neck Surgery. 2023 Published: 12 January 2023
- (11) **Nagano H, Kyutoku T, Matsumoto H, Kurono Y.**
Sudden death after operation, radiotherapy or chemoradiotherapy for head and neck cancer.
Otolaryngol Pol. 2022 Dec 15; 77(1): 1-5.

3. 総 説

(1) 山下 勝

〈本当はこわい頭頸部疾患〉呼吸困難
耳喉頭頸 94(9) : 2022.8.20 p748-752. 医学書院

(2) 山下 勝

【みみ・はな・のど アンチエイジング】声の老化とアンチエイジング
ENTONI 274 : 45-50. 2022.08 全日本病院出版社

(3) 山下 勝

急性声門下喉頭炎
日本医事新報「私の治療」 5159 2023.3.11. p46-47. 日本医事新報社

(4) 大堀純一郎

特集 重症化に注意！ 口腔・咽頭・喉頭の急性感染症
扁桃周囲膿瘍
扁桃周囲膿瘍の病態と分類
JOHNS 38(11) : 1431-1434, 2022

(5) 吉松誠芳, 大西広恵, 岸本 曜, 大森孝一

軟骨細胞, 間葉系幹細胞, iPS 細胞を用いた気管喉頭軟骨再生研究の現状
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 125 : 1281-1287, 2022

4. その他

(1) 山下 勝

耳鼻咽喉科専門医のための模擬テスト5
耳鼻咽喉科 1(5): 736, 2022 科学評論社

(2) 永野広海

リビング 医療ガイド めまい・難聴・耳鳴り
リビング鹿児島 2022年4月30日号

(3) 宮下圭一

リビング 医療ガイド ～テーマ～ いびき
リビング鹿児島 2023年1月14日号

(4) 川島雅樹

リビング 医療ガイド 大人のアレルギー
リビング鹿児島 2023年2月18日号

5. 国内学会発表

(1) 特別講演

京都大学医学部臨床講義 令和4年4月20日（WEB開催）
「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」
山下 勝

今村総合病院研修医臨床講義 令和4年6月4日（鹿児島市）
「鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科教室について」
山下 勝

いまきいれ総合病院研修医臨床講義 令和4年6月10日（鹿児島市）
「鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科教室について」
山下 勝

鹿児島県保険医協会 第103回医科研究会 令和4年8月24日（WEB開催）
「一般開業医に役立つ難聴対応
～加齢による難聴の特徴から補聴器・人工聴覚器の最新情報まで～」
宮之原郁代

第76回川崎市耳鼻咽喉科セミナー 令和4年11月10日（WEB開催）
「喉頭癌を含めた喉頭病変に対する手術治療」
山下 勝

第16回出水郡医科歯科連携研究会セミナー 令和4年11月11日（鹿児島県出水市）
「耳鼻咽喉科の悪性腫瘍」
山下 勝

令和4年度日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 島根県地方部会「秋の研修会」

令和4年11月12日（島根県松江市）

「喉頭疾患へのアプローチ～頭頸部癌（喉頭癌）への対応を含めて～」

山下 勝

第3回ホウ素中性子補足療法（BNCT）Webセミナー

令和4年12月8日（WEB開催）

紹介元施設より－症例紹介－

大堀純一郎

京都大学医学部臨床講義 令和5年2月15日（WEB開催）

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」

山下 勝

Allergy Seminar in kagoshima 令和5年2月15日（WEB開催）

「ポストコロナを見据えたアレルギー性鼻炎の治療」

牧瀬高穂

長崎県耳鼻咽喉科専門医講座 令和5年3月24日（長崎市）

「アレルギー疾患から頭頸部腫瘍まで－私の治療方針－」

山下 勝

シンポジウム

第84回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 令和4年7月8日～9日（広島市）

－耳鼻咽喉科疾患診療の最前線－

「音声外科・喉頭領域の診療進歩について」

山下 勝

第67回日本音声言語医学会総会・学術講演会 令和4年11月24日～25日（京都市）

－音声治療のエビデンス－

「Evidence-based medicine in logopedics and phoniatrics」

山下 勝

教育講演

第37回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会 令和4年7月16日～17日（那覇市）

「甲状軟骨再生をめざして」

吉松誠芳

一般

第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会

令和4年5月25日～27日（神戸市）

「当科における頭頸部癌遊離再建症例の検討」

大堀純一郎，永野広海，川島雅樹，井内寛之，山下 勝

「咽喉頭症状を来した多発筋炎／皮膚筋炎例の臨床検討」

永野広海，松元隼人，松崎尚寛，川島雅樹，宮下圭一，大堀純一郎，山下 勝，

黒野祐一

「鼻副鼻腔生検にて悪性リンパ腫と診断された自験例の検討」

松元隼人，大堀純一郎，川島雅樹，永野広海，山下 勝

第46回日本頭頸部癌学会 令和4年6月17日～18日（奈良市）

「当科における咽喉食摘後遊離空腸再建壊死症例の検討」

大堀純一郎，川島雅樹，井内寛之，山下 勝

第84回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 令和4年7月8日～9日（広島市）

「側頭下窩膿瘍から硬膜下膿瘍を来した1例」

喜山敏志，松崎尚寛，松元隼人，川島雅樹，山下 勝

「ANCA 関連血管炎性中耳炎（OMAAV）の2例」

徳重豪士，積山幸祐，花牟禮 豊，昇 卓夫，川島雅樹，山下 勝

第37回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会 令和4年7月16日～17日（那覇市）

「頸部胸腺嚢胞の1例」

田中智規，喜山敏志，吉松誠芳，山下 勝

第35回日本口腔・咽頭科学会ならびに学術講演会

令和4年9月8日～9日（倉敷市）

「舌に生じた Spindle cell lipoma」

松元隼人，川島雅樹，山下 勝

第61回日本鼻科学会総会・学術講演会 令和4年10月13日～15日（金沢市）

「上顎洞血瘤腫6例の臨床的検討」

安藤由実, 川島雅樹, 山下 勝

第32回日本耳科学会総会・学術講演会 令和4年10月19日～21日（横浜市）

「側頭骨内顔面神経鞘腫の3症例」

田淵みな子, 原口めぐみ, 松元隼人, 吉松誠芳, 大堀純一郎, 宮之原郁代,

山下 勝

「当科における手術加療した中耳真珠腫新鮮例の検討」

喜山敏志, 吉松誠芳, 大堀純一郎, 山下 勝

第73回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

令和4年11月3日～4日（宜野湾市）

「当科におけるボイスプロテーゼ留置術症例の検討」

松崎尚寛, 宮下圭一, 下藺知己, 喜山敏志, 吉松誠芳, 大堀純一郎, 山下 勝

第32回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

令和5年1月19日～20日（金沢市）

「喉頭全摘出後の咽頭皮膚瘻についての検討」

川島雅樹, 大堀純一郎, 永野広海, 宮下圭一, 松元隼人, 山下 勝

「当科における咽喉頭悪性腫瘍の内視鏡下経口的切除術の検討」

喜山敏志, 大堀純一郎, 川島雅樹, 山下 勝

「外切開にて切除した茎状突起過長症の1例」

峠 早紀子, 花牟禮 豊, 積山幸祐, 福田勝則, 昇 卓夫

第5回日本アレルギー学会九州・沖縄支部地方部会

令和5年2月11日（鹿児島市）

「13価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV13）の高齢マウスへの経鼻投与効果」

宮本佑美, 大堀純一郎, 川島雅樹, 山下 勝

第16回桜ヶ丘地区基礎系研究発表会 令和5年3月2日（鹿児島市）

「肺炎球菌ワクチン経鼻投与効果の検討」

宮本佑美, 大堀純一郎, 松元隼人, 川島雅樹, 永野広海, 山下 勝

第35回日本喉頭科学会総会・学術講演会 令和5年3月9日～10日（京都市）
「吸入ステロイド製剤が一因と考えられた喉頭原発クリプトコッカス症の一例」
安藤由実，川畠雅樹，西元謙吾，山下 勝

第22回日本再生医療学会総会 令和5年3月23～25日（京都市）
「ヒト iPS 細胞由来間葉系幹細胞を用いたラット喉頭軟骨再生」
吉松誠芳，大西広恵，趙 成珠，林 泰之，桑田文彦，椛 慎治，奥山英晃
河合良隆，樋渡 直，岸元 曜，坂本達則，池谷 真，大森孝一

1. 新入局員紹介

永田 圭

はじめまして。入局させて頂きました永田 圭と申します。久留米大学を2006年に卒業し、初期臨床研修を鹿児島市立病院で終了しました。その後母校の医局へ入局し、2023年3月まで在籍しました。関連施設に勤務することが多く、公立八女総合病院、飯塚病院、聖マリア病院に出向しておりました。4月よりいまきいれ総合病院に勤務しております。好きな手術は耳と鼻の内視鏡下手術です。ただ長期間同じ master に師事したことがなく、修行不足です。また関連病院で1人勤務の時期も長く、肝心な時に相談する人がいなかったり、一人で悩むことも多々ありました。今は研修医時代の恩師である花牟禮先生をはじめ、福田先生、積山先生、手術経験の豊富な Jedi master の下で何の不安もなく診療することができています。優秀な後輩（下薊先生）にも恵まれています。このような環境を与えて頂き、大変ありがたく思っております。

鹿児島出身（指宿市）ではありますが、福岡にいた期間が長かったためしばらく鹿児島弁はでないと思っていました。しかし3か月ほどでイントネーションが戻りつつあります。自分は鹿児島県人だったんだ！とルーツを感じています。ただ「いっちゃんわからんもんね」とか「それでよかつちやない？」など時々無意識に久留米弁が出てしまい、看護師さんに訝し気に見られることもあります。

趣味や好きなことは、食べること・飲むこと、サッカー観戦、魚釣り、温泉・サウナです。鹿児島に戻って驚いたのは、どこのスーパーに行っても鳥刺しがあることです。鹿児島県人は鳥刺しで食中毒になる人も少ないようで、カンピロバクターに対する特殊な免疫でもあるのでしょうか？サッカーはスター選手が多かったころのイタリアサッカーが好きでした。敵チームを徹底的に分析し、高度な戦術、適材適所に選手を配置して論理的な攻撃・守備を構築するチームが多く、下位チームが上位チームを倒すジャイアントキリングが容易に起こりうるリーグです。しかし最近は昔のように魅力的な選手やチームが少なくなっているように感じます。

初めて鹿児島に住むことになった息子（中学1年生）も環境に慣れてきましたので、近々一緒に釣りに出かけたり、温泉施設を巡りたいと考えています。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

竹元尊徳

鹿児島出身で志學館中等部・高等部を卒業後に鹿児島大学医学部医学科へ入学しました。大学時代はしゃいけんに所属し、卒後は鹿児島大学の桜島プログラムで2年間研修しました。その際には大学だけでなく、鹿児島医療センターや市比野記念病院（現在の卓翔会記念病院）にもお世話になりました。

私は大学4年生の時は、内科系、特に膠原病内科や腎臓内科を考えておりました。しかし実習が始まると外科系の面白さも感じ始め、内科的な要素もある外科系の診療科に行きたいと感じました。そして6年生になるときに、新型コロナウイルス感染症が流行し、「嗅覚障害」「味覚障害」などの単語がとても話題になりました。このときから耳鼻咽喉科・頭頸部外科を意識し始め、初期研修医時代にみたダイナミックな手術に運命を感じ、このたびは教室員への仲間入りさせていただきました。

今はわからないことも多いですが、周りの先生方の丁寧な指導と支えがあり、忙しいながらも充実した日々を過ごしております。少しでも早く成長し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の未来へ貢献していけるように努力して参ります。どうか御指導よろしく申し上げます。

2. 医局人事（令和5年5月現在）

教 授	山下 勝
准教授	大堀純一郎
講 師	永野広海
助 教	宮下圭一, 川島雅樹, 田淵みな子, 吉松誠芳
医 員	宮本佑美, 久徳貴之, 喜山敏志, 安藤由実, 徳重豪士, 竹元尊徳

医 局 長	川島雅樹
外来医長	永野広海
病棟医長	大堀純一郎

関連病院（令和5年5月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾, 高木 実, 原口めぐみ, 田中智規
鹿児島市立病院	馬越瑞夫, 松崎尚寛
いまきいれ総合病院	積山幸祐, 永田 圭, 下藺知己
鹿児島厚生連病院	牧瀬高穂
霧島市立医師会医療センター	井内寛之, 峠 早紀子
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
あまたつクリニック	松元隼人

3. 学会報告

18th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology - Head and Neck Surgery

山下 勝

2022年4月6日から8日にかけて JKJM2022が大阪市立大学角南貴司子会長のもとオンラインならびに後日のオンライン配信にて開催されました。

JKJMは1986年ソウルにて第1回が開催され、隔年にて日本と韓国交互に開催されてきました。2020年は新型コロナウイルス感染症のPandemicにて延期され、2022年は両国の感染状況から上記形態での開催となっています。多くのKeynote lecture, symposiumに加えてポスター閲覧も企画され、活発な討議がなされました。

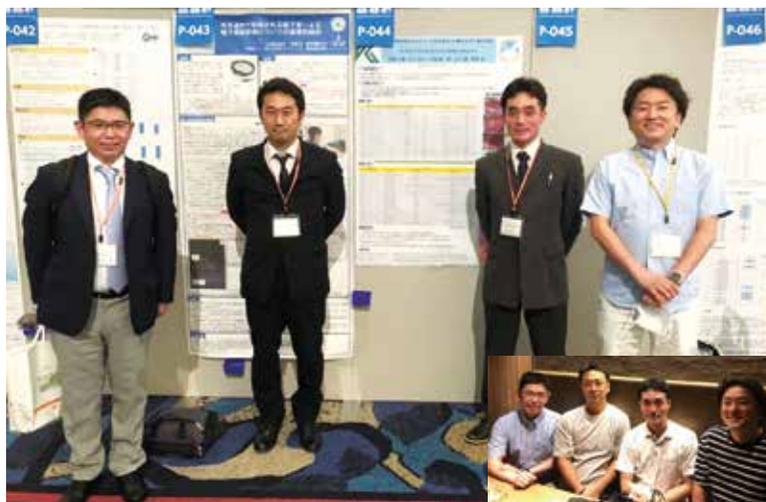
私はSymposium 7 “How to manage eosinophilic chronic rhinosinusitis (ECRS)”でSeoul National University HospitalのChae-Seo Rhee先生とChairを務めさせていただきました。

次回はFace to Faceの開催となることを願っております。

第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会

松元隼人

本学会は2022年5月25日～28日に神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場で開催されました。当教室からは山下勝教授、大堀純一郎先生、永野広海先生、私の4人が参加し



ました。大堀先生は「当科における頭頸部癌遊離再建症例の検討」、永野先生は「咽喉頭症状を来した多発筋炎／皮膚筋炎の臨床検討」、私は「鼻副鼻腔生検にて悪性リンパ腫と診断された自験例の検討」について発表しました。コロナ禍であり、ポスター会場も例年より小ぢんまりとした印象を受けましたが、症例について貴重な意見交換ができました。

特別講演では楽天グループの三木谷浩史社長が講演され、光免疫療法・アルミノックス療法について熱く語っておられました。さらに詳細に、小林久隆先生（米国国立がん研究所主任研究員）による学術講演があり、今後の癌治療の選択肢の一つとして習熟が必要だと、強く感じました。近年退局されたJ先生にもお会いすることができ、非常に有意義な学会参加となりました。

第46回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会

大堀 純一郎

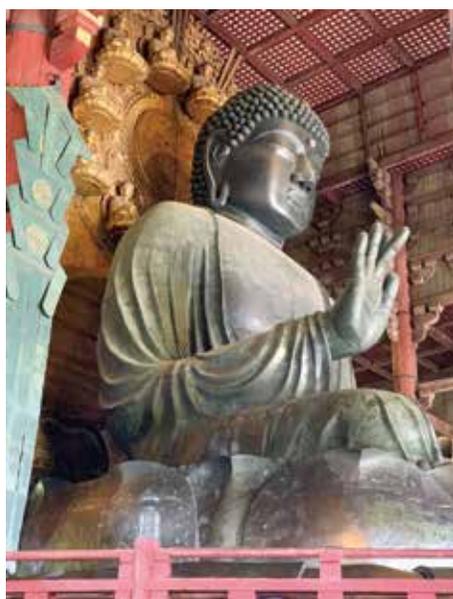
第46回頭頸部癌学会は、2022年6月17日・18日の2日間 奈良県コンベンションセンターで開催された。今回は現地開催と、ライブ配信、オンデマンド配信による開催であった。学会前の教育セミナーはオンデマンド配信のみでの受講であった。

当科からは山下教授と私が参加した。今回の学会では、ナーブリッジのハンズオンセミナーがあり、形成外科の先生の手技を間近に学べたことが収穫であった。

またオンデマンド配信では、高齢者の頭頸部癌治療戦略や、照射後再発がん、に対する新規治療法などの講演を聞くことができ、非常に勉強になった。

オンデマンド配信はいつでも聞くことができ非常に便利なのだが、日常業務を行いながら、夜間や休日に時間をとることは容易ではなく、やはり学会期間中に、会場で集中して勉強するほうが、自分にはあっていると感じた。

2022年年始から始まった新型コロナ第6波も本学会期間であった6月には少し下火となっており、観光地である奈良は修学旅行の中・高校生や、観光客でにぎわっていた。学会期間中オンデマンドで講演は聴けるからと少し足を延ばして、心を浄化させていただいた（写真）。



第84回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会

徳 重 豪 士

2022年7月8日から9日に第84回耳鼻臨床学会総会・学術講演会が開催されました。山下教授は「音声外科・喉頭領域の診療進歩について」のシンポジウムを、喜山先生は「側頭下窩膿瘍から硬膜下膿瘍を来した1例」、私は「ANCA 関連血管炎性中耳炎の2例」をポスター発表しました。大堀先生は座長として参加されました。

耳鼻科医として初めて県外での学会発表で緊張もありましたが無事終えることができました。また最先端の治療や、他施設で経験されたまれな症例について知る良い機会となりました。

喜山先生と巖島神社に行ったものの鳥居は改修工事中であったのは良い思い出です。

第37回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会

田 中 智 規

2022年7月16, 17日に第37回日耳鼻九州連合地方部会学術講演会が沖縄にて開催されました。

当教室からは山下教授, 川島先生, 吉松先生, 下菌先生, 私の5名が参加しました。

吉松先生は「甲状軟骨再生をめざして～喉頭気管軟骨再生研究の現状～」, 私は「頸部胸腺嚢胞の1例」という演題で発表しました。

現地参加し沖縄の雰囲気を味わうことができました。次回こそ野球大会に出場し, 日頃の練習の成果を充分に発揮できるようにしたいと思います。

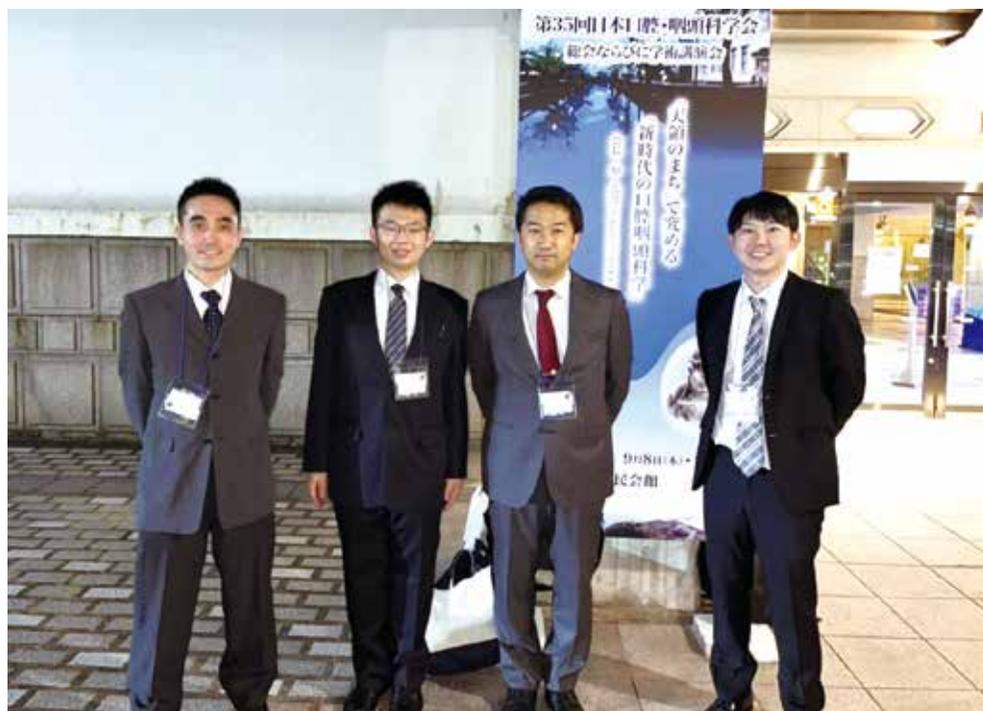
第35回日本口腔・咽頭科学会 総会・学術講演会

松 元 隼 人

本学会は2022年9月8日・9日に倉敷市民会館で開催されました。当教室からは山下勝教授, 田中智規先生, 私と, 当時初期研修医であった竹元尊徳先生の4人が参加しました。私は「舌に生じたSpindle cell lipomaの1例」について発表しました。初期研修医ながら, 演題毎に質問を繰り返す竹元先生を, 非常に頼もしく思えたことが印象に残っています。

Upper Airway Stimulation について Robson Capasso 先生 (Stanford Univ.) の招待講演があり, CPAP failure に対する新たなアプローチとして, 非常に興味深い内容でした。

残暑が残る倉敷でしたが, 倉敷川沿いには, 白壁の蔵屋敷や海鼠壁の土蔵などが建ち並び, 美観地区の名にふさわしい, 非常に風情のある景観でした。



第61回日本鼻科学会総会・学術講演会

安藤由実

令和4年10月13日～15日に金沢市で第61回日本鼻科学会総会・学術講演会が開催されました。大学からは山下教授と私が参加しました。山下教授は一般演題「良性腫瘍2」の座長を務められ, 演者の先生方へ今後の研究のヒントとなるようなご指摘をされているのが印象的でした。私は「上顎洞血腫6例の臨床的検討」というタイトルで口演させていただきました。コロナウイルス蔓延によりオンデマンド開催が主流となっておりますが, 初めて現地参加することができ, 自分と同じくらいの学年の先生たちが頑張っておられる姿を見て刺激になりました。発表は初日でしたので早めに緊張から解放され, 金沢の海の幸を堪能させていただきました。

第32回 日本耳科学会総会・学術講演会

喜 山 敏 志

2022年10月19日～21日の期間、第32回日本耳科学会総会・学術講演会がパシフィコ横浜にて開催され、当教室からは田淵みな子先生、原口めぐみ先生、私が参加いたしました。田淵先生は「側頭骨内顔面神経鞘腫の3症例」、私は「当科における手術加療した中耳真珠腫新鮮例の検討」という演題でそれぞれ現地にて発表いたしました。

久しぶりにハンズオンなど現地参加ならではの経験も出来、非常に有意義な学会参加となりました。そして秋の横浜は心地よかったです。初めての同学会参加となりましたが、普段吸収し得ないことも多く、今後も参加できれば、と思える学会でした。

第73回日本気管食道科学会ならびに学術講演会

松 崎 尚 寛

2022年11月3日、4日に第73回日本気管食道科学会が沖縄で開催されました。

当教室からは山下教授が「甲状腺・副甲状腺4」の座長をされ、下藺知己先生、私が参加しました。

私は「当科におけるボイスプロテーゼ留置術症例の検討」という演題で発表いたしました。

今回は久しぶりに現地開催での学会に参加させていただきました。

興味深い発表をたくさん聞くことができ、また現地開催ならではの良さを感じることができました。

また何かしらかの学会にて発表できるよう日々の仕事を頑張ろうと思います。

第67回 日本音声言語医学会 総会・学術講演会

山 下 勝

2022年11月24日・25日に第67回日本音声言語医学会総会・学術講演会が平野滋会長のもとホテルオークラ京都にて開催されました。現地開催およびオンデマンド配信形式の開催でしたが、現地にも多くの参加者がこられ大盛況でした。

音声と歌唱を中心にプログラムが企画され、「世界レベルの音声治療を」とのテーマ

にて多くのパネルやシンポジウムが行われ、海外からの言語聴覚士の先生方も交えてとても活発な討論が繰り広げられました。

私はシンポジウム1「音声治療のエビデンス」にて Evidence-based medicine in logopedics and phoniatrics との演題にて発表させていただきました。初日の開会式直後かつ久々の英語セッションでしたので、大変緊張いたしました。

音声言語医学会は1956年に設立され、言語聴覚士、医師、学校教諭、研究者、その他にて構成されており、現在1639名の会員数です。2022年度から音声言語認定医、認定士資格試験制度が開始されております。当科では私のみが会員の状況ですが、今後、教室員・同門の先生方の会員が増えていくことと期待しております。

第32回 日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

峠 早紀子

2023年1月19日・20日に第32回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会が開催されました。今回は石川県での現地開催となりました。当教室からは山下勝教授、川島雅樹先生と喜山敏志先生、私の3人が参加しました。山下勝教授は「喉頭2」の座長をされ、川島先生は「喉頭全摘出後の咽頭皮膚瘻についての検討」、喜山先生は「当科における経口的咽喉頭部分切除術（TOVS）症例の検討」、私は「外切開にて切除した茎状突起過長症の1例」という演題でそれぞれ発表いたしました。

今回の学会が、入局して初めての現地参加での発表ということで緊張もありましたが、石川のおいしいごはんを食べ、観光をし、現地参加の醍醐味を感じた学会参加となりました。参加させていただき、ありがとうございました。

第35回日本喉頭科学会総会 学術講演会

安藤 由実

令和5年3月9日、10日に京都市で第35回日本喉頭科学会総会 学術講演会が開催されました。大学からは山下教授と私が参加しました。山下教授は初日のシンポジウム「声帯癭痕の基礎と臨床：Scarwars」の座長を務められました。サブタイトルにも趣向が凝らされており興味をそそられましたが、内容も非常に興味深く勉強になりました。私は「吸入ステロイド製剤が一因と考えられた喉頭原発クリプトコッカス症の一例」というタイトルで鹿児島医療センター在籍中に経験した症例についてポスター発表をいた

しました。ワインを片手に会話も楽しみつつ、にこやかな雰囲気での発表となりました。他の病院の先生とも親交を深めることができ、また来年もこの学会で会いましょうと約束できたことも良い思い出になりました。来年も参加できるようにアンテナを張りながら診療に臨みたいと思います。

第22回日本再生医療学会総会

吉松 誠 芳

令和5年3月23日から25日に京都大学 iPS 細胞研究所 高橋淳教授が会長を務められ、第22回日本再生医療学会総会が京都国際会館にて開催されました。私は現在も研究テーマとしているヒト iPS 細胞を用いた気管喉頭軟骨再生に関してポスター発表をさせていただきました。これまで耳鼻咽喉科関連の学会では幾度か発表する機会がありましたが、このような再生医療専門の学会での発表は初めての経験であり、聴講していただいた方からも貴重な意見をいただき、今後の研究の進捗にも有意義な学会参加となりました。コロナ蔓延が落ち着き、学会も4年ぶりの現地開催ということで、会場は活気に満ちあふれ、ポスター会場ではワインとチーズがふるまわれていました。また、京都は鹿児島よりも一足先に桜の満開をむかえ、外国人も含め多くの観光客で賑わっていました。もし、再生医療に関連した研究に興味のある方は吉松までご相談いただければ幸いです。

4. 関連病院便り

鹿児島医療センター便り

西 元 謙 吾

令和4年度の医療環境も全国的に新型コロナウイルスが影を落としましたが、鹿児島医療センター耳鼻咽喉科は今年度も大きな影響を受けてしまいました。病院内での新型コロナウイルス感染によるクラスターが4回発生し、耳鼻咽喉科の医師はすべて新型コロナウイルスに感染するに至りました。クリーンパーテーションやPPEでの対応では耳鼻咽喉科領域の診察において限界があると感じます。耳鼻咽喉科の入院も2回長期間にわたり中止・延期を余儀なくされ、手術症例数も例年になく減少し医業収益はかなり減少しました。令和5年度に入り落ち着いている様相をみせていますが、もうクラスターはこりごりです。

病棟閉鎖に伴い、紹介していただいた先生方には多大なご迷惑をかけ申し訳ありませんでした。連携していただいている先生方にもかなりご負担をかけたと思いますが、今後は急患もなるべくスムーズに受けられるように健康でいようと決意しています。

昨今の厳しい医療経営のため、新規で医療機器を導入することは難しいところですが、昨年度無事に耳鼻咽喉科には新しい手術用顕微鏡が導入されました。これまでの顕微鏡は年代物で修理ができないための更新となりますが、今後も診療に役立つ機器についてはしっかり導入し耳鼻咽喉科診療の質向上を目指したいと思います。

スタッフとして今年度、最初の6か月は高木実先生に来ていただき耳鼻咽喉科診療を担っていただきましたが、さすがにマンパワー不足でかなりきつい思いをしました。なんとかこなすことができたのも高木実先生のおかげです。10月から高木実先生・田中智規先生の体制となり落ち着きを取り戻しました。やはりみんなで一緒にワイワイ相談しながら診療していくことはいろいろな気づきにつながり大切なことだと実感しています。

昨年度の手術件数も当然コロナ前と比べるとまだまだ回復していません。ここ2～3年は同じことを書いていると思いますが、今年度こそ新型コロナウイルスに負けないように診療に臨みたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。とにかく今年度は元気に1年間過ごすことが目標です。

鹿児島市立病院便り

久 徳 貴 之

鹿児島市立病院耳鼻咽喉科，久徳です。2022年2月より勤務させていただいております。わたくしとしましては専門医となつてすぐの入職であり，一医師としての診療にしばらくの間は慣れないながらも，馬越先生，林先生，宮崎大学の津曲先生に相談にのつていただき，自分の診療を吟味しながら充実した勤務ができました。総合医局であることから他科の先生方とも非常にコミュニケーションが取りやすく，耳鼻咽喉科だけでは気付きにくい視点からもご意見をいただくことが勉強にもなり，楽しくもありました。また，メディカルスタッフとも距離が近いので，横の連携に優れた安心して働ける環境でした。

ただ，夏以降の covid-19 感染拡大，7波，8波による影響は大きく，公立病院の立場から病院全体として対応せざるを得ませんでした。救急部・ICUスタッフによる懸命な治療により急性期を脱した患者様の中には，人工呼吸器離脱が不能であったり，リハビリ開始するための経口挿管離脱が必要であったりと，気管切開を要する方が非常に多かったのが印象的でした。緊急時は抗原陽性でも気管切開を要する場合もあり，緊張感のある症例もありました。全ての診療科は病床制限を受け，耳鼻咽喉科はさらに，住み慣れた8階病棟を臨時コロナ病床として活用されるため，度々の病棟・処置室の移動を必要としました。病床・手術も制限を受け，ご紹介いただいた患者様へ長期間の手術待機を強いるケースも生じ，近隣医療機関へもご迷惑をおかけし，大変申し訳ありませんでした。Covid-19 関連事案の収束を願うばかりです。

ご迷惑をおかけしてしまうこともあるかと存じますが，しっかりと役割を果たすことができるよう精進してまいります。鹿児島市立病院を今後ともよろしくお願い申し上げます。

鹿児島厚生連病院便り

牧 瀬 高 穂

鹿児島厚生連病院の牧瀬です。今年新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年間でした。当院耳鼻咽喉科でも発熱外来や入院の対応を行うなど，イレギュラーな運営が求められることもありましたが，スタッフなどの協力を得て，なんとか乗り越えることができました。また，同門会並びに医局の皆様のお陰で，手術を中心に前年と同程度の

外来入院診療を行うことができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後は、新型コロナウイルス感染症に対する対応も変わってくるでしょうが、従来と全く同じ診療に戻ることはないような気がしています。社会のライフスタイルの変化に合わせて、当科も柔軟に対応していけるよう努力したいと存じます。当面は一人旅な診療が続きますが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

いまきいれ総合病院便り

峠 早紀子

いまきいれ総合病院頭頸部・耳鼻咽喉科の峠です。2022年4月から後期研修医として1年間勤務させていただきました。

当院では、口腔咽喉頭、耳、鼻、頸部から、形成外科と合同で行う再建術を伴う手術まで、幅広い症例の手術を行っております。甲状腺手術は、外切開だけでなく内視鏡下でも施行しており、当院に勤務して初めて内視鏡下手術に入ることができ、大変勉強になりました。

外来では、開業の先生方から多くの患者さんをご紹介いただいております。また、突発性難聴や急性喉頭蓋炎、深頸部膿瘍など入院加療の必要な急性疾患も多く対応しております。

この1年間、経験豊富なすばらしい先生方にご指導いただきながら、手術・外来ともに多くの症例を経験することができました。診療だけではなく、学会発表や論文作成もすることができ、大変充実した1年を過ごすことができました。この1年間の経験をもとに、今後の耳鼻咽喉科診療に貢献できるよう精進していく所存です。

当院は4月から永田圭先生と下藺知己先生が赴任され、新体制がスタートします。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

霧島市立医師会医療センター便り

井内寛之

早いもので私が赴任してから1年が経ちました。今年度は引き続きコロナとの戦いとなりました。病棟でコロナクラスターが3回発生し、入院制限や手術延期が相次ぎました。特に入院制限がかかり、近隣の耳鼻咽喉科の先生の急患患者の入院をお断りしなければならず、大変申し訳ありませんでした。今後の動きについては全く予想できません

が、可能な限り対応させて頂きたいと思っています。

手術に関して、手術器具が揃い耳科手術、鼻科手術、頭頸部手術と幅広い分野での手術が可能となりました。手術日が週1日しかありませんが、限られた時間の中で効率よく手術を行いたいと思っています。特定の分野に偏りなく手術できることは、教育面で非常に有益なことと考えています。特に霧島地区の耳鼻咽喉科先生方には貴重な手術症例をご紹介いただき感謝しています。

最後に人事ですが、2023年3月末で原口先生が鹿児島医療センターに異動となり、4月からは峠先生が赴任されます。引き続き2人体制で診療を行なっております。霧島市を中心とした地域医療に貢献できるように努めてまいります。霧島市立医師会医療センターを今後ともよろしくお願い申し上げます。

天辰病院便り

下 菌 知 己

2022年度は4月から1月まで宮本佑美先生、そして2月から3月まで私が勤務させていただきました。

耳鼻科に入局してから10ヶ月程度の未熟な私が、耳鼻科医1人という環境でクリニックの外来診療、病棟管理をこなせていけるかと勤務前は不安でいっぱいでしたが、大学勤務の先生方や病院のスタッフに支えてもらいながら、なんとか無事に2ヶ月間を終えることができました。

今年度は新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、発熱外来の稼働率上昇はもちろんのこと、2月からは花粉症も例年に比べ、患者数が多かったように感じました。また病院の看板建て替え工事や耳鼻科ユニットの移設の検討など、新しい体制へ向けて準備を進めている段階です。

2023年4月からは、松元隼人先生が赴任されます。今後とも先生方と協力しながら、地域医療に貢献できるように精進して参りますので何卒お願い申し上げます。

XII. 関連病院

(令和5年6月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
いまきいれ総合病院	890-0051	鹿児島市高麗町43-25 TEL:099-252-1090 FAX:099-203-9119	月~金 (8:30~11:30)	
霧島市立医師会 医療センター	899-5112	霧島市隼人町松永3320 TEL:0995-42-1171 FAX:0995-42-2158	月~金 (8:30~11:00)	
寺田病院	895-2513	伊佐市大口上町31-4 TEL:0995-22-1321 FAX:0995-22-2947	月・火・木・金 (9:00~17:00) 土 (9:00~12:00) 水曜日休診	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	水・金 (9:00~15:00)	
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~18:00) 土 (9:00~13:00)	
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	火・木 (14:00~17:00) 土 (9:00~12:30)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木・金 (10:00~16:30) 月・火・水 (9:00~17:30)	
種子島医療センター	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 午前中受付	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
今村総合病院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221	火・木・土 (9:00~11:30)	
県立大島病院	894-0015	奄美市名瀬真名津町18-1 TEL:0997-52-3611	木 (10:00~17:00) 金 (8:30~15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	月・水・木 (8:30~17:00) 土 (8:30~11:30)	火
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	毎週木曜日 (8:30~16:00)	
前原総合病院	899-2201	日置市東市来町湯田3614 TEL:099-274-2521 FAX:099-274-3306	月・火・水・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 濟霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phyathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkklao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

Ⅳ. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成2年12月7日 ～3年12月21日 平成5年10月12日 ～10月17日	Department of Clinical Sciences (ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジャイ病院)	平成3年4月10日 ～9月7日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成4年5月17日 ～5年5月16日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成4年7月1日 ～9月26日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成5年8月3日 ～9月28日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National Universi ty 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成5年6月5日 ～6月8日 平成6年1月18日 ～3月1日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成6年3月11日 ～6月4日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成6年4月2日 ～4月19日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成5年1月25日 ～平成9年3月31日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成6年4月4日 ～7年6月13日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成6年10月3日 ～11年3月31日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成8年1月25日 ～8年12月30日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年3月23日～H13.9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年4月2日～H17.3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月1日 ～H21年2月13日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏 名	最終職別	在局期間
西 宜 行	研 修 生	59. 4 -59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4 -60. 6 61. 1 -61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4 -62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4 -63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63. 10-63. 12
三 角 芳 文	研 修 生	63. 10-63. 12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H 2. 7 -H 2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H 2. 10-H 2. 12
宮 原 広 典	研 修 生	H 3. 1 -H 3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H 5. 7 -H 5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H 5. 10-H 5. 12
的 場 康 平	研 修 生	H 7. 1 -H 7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H 7. 10-H 7. 12
泊 口 哲 也	研 修 生	H 8. 1 -H 8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H 8. 7 -H 8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H 8. 10-H 8. 12 H 9. 4 -H 9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H 9. 1 -H 9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10. 4 -H10. 6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11. 1 -H11. 3
横 山 孝 二	研 修 生	H11. 4 -H11. 6

氏 名	最終職別	在局期間
田 中 裕 之	研 修 生	H11. 7 - H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13. 6 - H13. 12
森 田 喜 紀	研 修 生	H15. 1 - H15. 3

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

(総則)

- 第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。
- 第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

(目的ならびに事業)

- 第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 同門会総会の開催
 2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
 3. 記念事業の開催
 4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会則)

- 第5条 本会は会員を次のとおりとする。
教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。
- 第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）
- 第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。
- 第8条 会員は希望により退会することができる。
- 第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

(役員)

- 第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。
なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。名誉会長は原則として会長通算2期6年以上務めた者で、年齢70歳以上を推薦の必要条件とする。
- 第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

- 第12条 役員改選時，（旧）役員会は（新）会長候補を決定し，総会での承認を経て新会長が選出される
- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し，会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し，会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し，会長がこれを委嘱する。
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し，会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。
（会議）
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。総会は総会員の過半数の出席をもって成立し，委任状提出者は出席とみなす。
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し，事業計画，経理その他重要な事項を審議する。
（会則の変更）
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て，変更することができる。

附記

本会則は平成22年1月17日より施行する。

本会則は令和4年（2022年）1月15日から施行実施する（第18条）

●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

ここ数年控えていた教室のイベントがようやく少しずつ再開されてきました。周囲を見渡すと鹿児島県の夏の風物詩である六月灯が賑やかに開催され、声出し応援が響くなかで懸命にプレーをする高校球児の姿が目に焼き付きます。3年前の夏に甲子園の大舞台での活躍の機会を失った球児たちが「あの夏を取り戻せプロジェクト」のもとクラウドファンディングを立ち上げ、今年11月の全国元高校野球児野球大会甲子園開催を目指して奮闘しています。大会の成功を祈らずにはられません。

高校球児にかぎらず多くの方が、この数年のあいだに喜怒哀楽に彩られたできごとを経験されたことと思います。その表面だけをすくい取り、手放して受けとめるのではなく、喜怒哀楽の向こうにあるものに思いをはせることができたらしめたいと思います。本号の表紙には広い青空のもと錦江湾に浮かぶ桜島の写真を選びました。ときには青い空のそこ深くに思いをはせてみるのも良いのではないのでしょうか。

同門会および地方部会の先生方におきましては、日頃より多大なるご支援をいただき本当に有難うございます。教室が益々発展するとともに、本誌が皆様の交流の場となりますよう、今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

(文責：川島雅樹)

令和5年7月

編集長(医局長) 川島雅樹

編集委員 徳重豪士

大夫堀昌子

さくらじま 第37号

令和5年8月10日 印刷

令和5年8月17日 発行

発行 鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
電話 (099) 275-5410

印刷 斯文堂株式会社
電話 (099) 268-8211

